

(研究部門)

個別最適な学び × 協働的な学び
―試行錯誤のサイクルを高速回転させろ―

大阪市立城東小学校 松本 康之

1. 研究主題設定の理由

本校では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指し、教育活動を進めてきた。近年、社会の複雑化と変化の激しい VUCA 時代において、子どもたちに必要とされるのは、自ら課題を発見し解決する力や、多様な他者と協働する力である。一方で、教育現場では教員の働き方改革が求められ、業務負担の軽減と質の高い教育の両立が大きな課題となっている。このような背景から、本校では「試行錯誤のサイクルを高速回転させる」というスローガンを掲げ、挑戦的かつ柔軟な教育環境の構築を目指した。

2. 研究の趣旨

本研究は、「学びの転換」と「働き方改革」の2つを両立させ、持続可能な教育環境を実現することを目的としている。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を基盤に、子どもたちが主体的に学びに向かう力を育成し、教員がこれまで以上に子どもたち一人ひとりに向き合える時間と余裕を確保することを目指している。この取組を通じて、教育現場における課題解決の糸口を見出し、広く教育現場に還元することが本研究の趣旨である。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、本校教員を次の3つのチームに分け、研究を進めた。

① 自己調整学習

子どもたちが自分で学びを計画し、実行し、振り返る力を身につけるための取組。低学年から「けてぶれ学習法」を導入し、段階的に自己調整能力を育成した。

② GIGA 城東構想

ICT 活用を推進し、教員の業務負担を軽減しながら、子どもたちの学びをより効果的・効率的にすることを目指した。クラウド上で教材や進捗を共有し、双方向のコミュニケーションを可能にする仕組みを構築した。

③ PBL（課題解決型学習）

子どもたちが実際の社会課題に取り組む中で、主体的・協働的な学びを深めるプロジェクトを展開した。具体例として、地域の課題解決をテーマにした学年横断型のポスター作成活動などを行った。

4. 研究の成果と今後の課題

（１）研究の成果

自己調整学習の進展

低学年から導入した「けてぶれ学習法」により、子どもたちが自分で学びを計画し、実行し、振り返る力を身につけつつある。特に、学習内容の選択や計画作成が習慣化され、学びに対する主体的な姿勢が育成されている。

ICT 活用による教育効果の向上

GIGA スクール構想に基づき、クラウド教材の活用や双方向型授業を取り入れた結果、教員の業務効率が向上した。加えて、ICT を活用することで、児童間の学び合いが促進され、理解度の向上が確認された。

PBL による学びの深化

PBL を通じて、児童が地域課題や学校生活の改善策を探るプロジェクトに参加し、対話力や問題解決能力を向上させた。具体的には、児童自らがデザインしたポスターやプレゼンテーションの質が向上し、より説得力のある成果物が生まれた。

働き方改革の成果

教員の残業時間を削減する取り組みを進めた結果、教員一人ひとりが子どもと向き合う時間を確保できた。教員の授業準備時間が増えたことで、授業の質が向上したとの教員からの声も増えている。

（２）今後の課題

自己調整学習では、低学年の児童が自主的に学びを選択する段階でつまづくことがあり、初期支援の工夫が必要だと感じた。また、PBL は仮説・検証のプロセスが時間を要し、カリキュラム内での時間調整が課題となった。さらに、ICT の活用については教員間のスキル格差があり、十分に機能させるには継続的な研修と支援が必要である。働き方改革については、改革が教育の質に与える影響を懸念する声もあり、成功事例の共有や対話の場を設ける必要がある。